

## 交通関連企業景気動向調査（平成18年3月1日時点）結果

目的：交通関連企業における業況、経営動向を把握する。

対象業種：貨物、旅客、その他全16業種

事業者数：調査対象1,459社、有効回答1,036社（有効回答率71.0%）

調査時点：平成18年3月1日現在

### 概要

～業況、貨物・旅客ともに下降、貨物はマイナスに転じる～  
〔最近の業況DI=-17.5、18年度上半期の業況見通しDI=-8.2〕

- ・業況DIは、前回の調査（平成17年9月1日）では7.8ポイント上昇（DI=-20.5→-12.7）となったが、今回の調査では4.8ポイント下降した（DI=-12.7→-17.5）。
- ・貨物・旅客とも悪化（DI=5.7→-2.3、-26.7→-33.9）。貨物は前回のプラスからマイナスとなり、旅客は引き続きマイナスとなった。
- ・業種別にみると、16業種中8業種でDIが上昇し、8業種で下降となっている。
- ・DIがプラスとなった業種（4業種）： 外航海運、倉庫、港湾運送、旅行業  
DIがマイナスとなった業種（12業種）： 内航海運、フェリー、トラック、旅客船、JR、民鉄旅客、バス、ハイヤー・タクシー、航空運送、登録ホテル、造船、自動車整備
- ・18年度上半期の業況見通しDIは、-8.2となっており、貨物（DI=-1.9）、旅客（DI=-15.7）とも今後は悪化するとみている事業者が多い。

- （注）1. DI＝「良い（改善）、人手不足、増加」と回答した事業者の割合  
—「悪い（悪化）、人手過剰、減少」と回答した事業者の割合
2. 全体及び部門別（貨物部門、旅客部門、その他）DIについては、母集団の構成比率を踏まえた重み付けをしている。また、前回及び前年の結果についても同様に修正した。

## 調査結果

### 1. 業況

#### (1) 調査時点（平成18年3月1日）の業況DI=-17.5

交通関連企業の業況DIは、-17.5と、平成17年9月調査（以下前回調査）に引き続きマイナスとなり、前回調査に比べマイナス幅は拡大している（DI=-12.7→-17.5）。有効回答事業者（以下「事業者」という。）数で見ると、「良い」と感じている事業者は25.6%に対し、43.1%の事業者が「悪い」と感じており、「悪い」とみる事業者の方が多い。

貨物部門では、外航海運、倉庫及び港湾運送が引き続きプラス、内航海運がプラスからマイナス、フェリー及びトラックが引き続きマイナスとなった。その結果、マイナス3業種、プラス3業種となり、全体では前回のプラスからマイナスとなった。

旅客部門では、旅行業が引き続きプラス、JRがゼロからマイナスとなったほかは、いずれの業種も引き続きマイナスとなっている。その結果、マイナス7業種、プラス1業種となり、全体では引き続きマイナスとなった。

#### 最近の業況

| 部門・業種    |                 | 良い   | 悪い   | DI    | 前回調査との差 | 前回(17.9)DI | 前年(17.3)DI |
|----------|-----------------|------|------|-------|---------|------------|------------|
| 全体       |                 | 25.6 | 43.1 | -17.5 | -4.8    | -12.7      | -20.5      |
|          | 貨物部門 (475)      | 31.8 | 34.1 | -2.3  | -8.0    | 5.7        | -3.1       |
|          | 旅客部門 (476)      | 19.3 | 53.2 | -33.9 | -7.2    | -26.7      | -49.5      |
|          | その他 (85)        | 25.9 | 36.5 | -10.6 | 24.0    | -34.6      | -27.7      |
| 貨物       | 外航海運 (50)       | 58.0 | 18.0 | 40.0  | -6.3    | 46.3       | 38.9       |
|          | 内航海運 (83)       | 27.7 | 34.9 | -7.2  | -8.6    | 1.4        | -1.9       |
|          | フェリー (40)       | 7.5  | 75.0 | -67.5 | 24.5    | -92.0      | -66.6      |
|          | 倉庫 (110)        | 35.5 | 21.8 | 13.7  | 6.3     | 7.4        | 0.0        |
|          | 港湾運送 (87)       | 39.1 | 29.9 | 9.2   | -11.0   | 20.2       | 9.5        |
|          | トラック (105)      | 21.9 | 41.9 | -20.0 | -8.3    | -11.7      | -12.4      |
| 旅客       | 旅客船 (24)        | 12.5 | 62.5 | -50.0 | 12.5    | -62.5      | -64.0      |
|          | JR (6)          | 16.7 | 50.0 | -33.3 | -33.3   | 0.0        | 33.3       |
|          | 民鉄旅客 (94)       | 18.1 | 44.7 | -26.6 | -4.2    | -22.4      | -40.0      |
|          | バス (85)         | 11.8 | 65.9 | -54.1 | -13.5   | -40.6      | -72.4      |
|          | ハイヤー・タクシー (104) | 13.5 | 66.3 | -52.8 | -31.9   | -20.9      | -52.8      |
|          | 航空運送 (39)       | 25.6 | 38.5 | -12.9 | 4.2     | -17.1      | -8.0       |
|          | 登録ホテル (89)      | 25.8 | 47.2 | -21.4 | 8.2     | -29.6      | -56.6      |
| 旅行業 (35) | 40.0            | 31.4 | 8.6  | 5.1   | 3.5     | 28.0       |            |
| その他      | 造船 (62)         | 27.4 | 38.7 | -11.3 | 20.2    | -31.5      | -25.0      |
|          | 自動車整備 (23)      | 21.7 | 30.4 | -8.7  | 33.0    | -41.7      | -37.5      |

(注) 1. ( ) 内は、有効回答事業者数

2. 前回(17.9)DIは、17年9月調査時点での「最近の業況」

前年(17.3)DIは、17年3月調査時点での「最近の業況」

(2) 18年度上半期の業況見通しDI=-8.2

18年度上半期の業況見通しDIは、-8.2となった。(1)で述べたとおり、業況DIがマイナスとなっただけでなく、業況見通しDIもマイナスとなっており、今後も業況は悪化するとみている事業者が多い。

貨物部門では、倉庫及びトラックがプラス、港湾運送がゼロ、外航海運、内航海運及びフェリーがマイナスとなっている。その結果、(1)で述べたとおり業況DIがマイナスとなっただけでなく、業況見通しDIもマイナスとなっており、今後も業況は悪化するとみている事業者が多い。

旅客部門では、JR、航空運送、登録ホテル及び旅行業がプラス、旅客船、民鉄旅客、バス及びハイヤー・タクシーがマイナスとなっている。その結果、(1)で述べたとおり業況DIがマイナスとなっただけでなく、業況見通しDIもマイナスとなっており、今後も業況は悪化するとみている事業者が多い。

18年度上半期の業況見通し

| 部門・業種 |                 | 良くなる     | 悪くなる | DI    |
|-------|-----------------|----------|------|-------|
| 全体    |                 | 22.9     | 31.1 | -8.2  |
|       | 貨物部門 (475)      | 25.1     | 27.0 | -1.9  |
|       | 旅客部門 (476)      | 20.2     | 35.9 | -15.7 |
|       | その他 (85)        | 25.9     | 27.1 | -1.2  |
| 貨物    | 外航海運 (50)       | 18.0     | 20.0 | -2.0  |
|       | 内航海運 (83)       | 16.9     | 32.5 | -15.6 |
|       | フェリー (40)       | 27.5     | 37.5 | -10.0 |
|       | 倉庫 (110)        | 29.1     | 22.7 | 6.4   |
|       | 港湾運送 (87)       | 27.6     | 27.6 | 0.0   |
|       | トラック (105)      | 27.6     | 25.7 | 1.9   |
|       | 旅客              | 旅客船 (24) | 4.2  | 33.3  |
|       | JR (6)          | 16.7     | 0.0  | 16.7  |
|       | 民鉄旅客 (94)       | 14.9     | 30.9 | -16.0 |
|       | バス (85)         | 15.3     | 54.1 | -38.8 |
|       | ハイヤー・タクシー (104) | 16.3     | 53.8 | -37.5 |
|       | 航空運送 (39)       | 25.6     | 17.9 | 7.7   |
|       | 登録ホテル (89)      | 30.3     | 23.6 | 6.7   |
|       | 旅行業 (35)        | 37.1     | 11.4 | 25.7  |
| その他   | 造船 (62)         | 29.0     | 25.8 | 3.2   |
|       | 自動車整備 (23)      | 17.4     | 30.4 | -13.0 |

## 2. 売上高

### (1) 17年度下半期の17年度上半期対比売上高DI=-7.9(注1)

17年度下半期の17年度上半期に対する売上高DIは、-7.9と前回調査に引き続きマイナスとなり、前回調査に比べマイナス幅は拡大している(DI=-4.3→-7.9)。

貨物部門では、外航海運、倉庫及び港湾運送が引き続きプラス、内航海運及びトラックがマイナスからプラス、フェリーが引き続きマイナスとなっている。その結果、全体では引き続きプラスとなった。

旅客部門では、登録ホテルがマイナスからプラス、旅行業がプラスからゼロ、JRがマイナスからゼロ、民鉄旅客及び航空運送がプラスからマイナス、旅客船、バス及びハイヤー・タクシーが引き続きマイナスとなっている。その結果、全体では引き続きマイナスとなった。

17年度下半期の売上高実績

| 部門・業種    |                 | 改善   | 悪化   | DI    | 前回調査との差 | 前回(17.9)DI | 前年(17.3)DI |
|----------|-----------------|------|------|-------|---------|------------|------------|
| 全体       |                 | 30.2 | 38.1 | -7.9  | -3.6    | -4.3       | -9.2       |
|          | 貨物部門 (475)      | 33.9 | 32.6 | 1.3   | -1.8    | 3.1        | 4.6        |
|          | 旅客部門 (476)      | 26.1 | 47.5 | -21.4 | -11.5   | -9.9       | -34.0      |
|          | その他 (85)        | 33.0 | 16.5 | 16.5  | 29.3    | -12.8      | 0.1        |
| 貨物       | 外航海運 (50)       | 48.0 | 24.0 | 24.0  | 9.2     | 14.8       | 41.7       |
|          | 内航海運 (83)       | 31.3 | 30.1 | 1.2   | 14.3    | -13.1      | 20.3       |
|          | フェリー (40)       | 20.0 | 60.0 | -40.0 | -20.0   | -20.0      | -54.1      |
|          | 倉庫 (110)        | 35.5 | 30.0 | 5.5   | -11.9   | 17.4       | -2.7       |
|          | 港湾運送 (87)       | 36.8 | 35.6 | 1.2   | -7.7    | 8.9        | -11.1      |
|          | トラック (105)      | 30.5 | 28.6 | 1.9   | 8.2     | -6.3       | 10.9       |
| 旅客       | 旅客船 (24)        | 12.5 | 54.2 | -41.7 | -25.0   | -16.7      | -52.0      |
|          | JR (6)          | 33.3 | 33.3 | 0.0   | 16.6    | -16.6      | -16.6      |
|          | 民鉄旅客 (94)       | 19.1 | 43.6 | -24.5 | -32.0   | 7.5        | -40.0      |
|          | バス (85)         | 8.2  | 70.6 | -62.4 | -39.3   | -23.1      | -67.2      |
|          | ハイヤー・タクシー (104) | 26.9 | 47.1 | -20.2 | -1.1    | -19.1      | -17.2      |
|          | 航空運送 (39)       | 35.9 | 38.5 | -2.6  | -27.0   | 24.4       | -20.0      |
|          | 登録ホテル (89)      | 44.9 | 38.2 | 6.7   | 38.5    | -31.8      | -34.0      |
| 旅行業 (35) | 34.3            | 34.3 | 0.0  | -37.9 | 37.9    | 8.0        |            |
| その他      | 造船 (62)         | 38.7 | 9.7  | 29.0  | 25.3    | 3.7        | 9.1        |
|          | 自動車整備 (23)      | 17.4 | 34.8 | -17.4 | 32.6    | -50.0      | -33.3      |

(注) 1. 季節変動要因を除いた実勢ベース

2. 前回(17.9)DIは、17年9月調査時点での「17年度上半期売上高が16年度下半期に対して改善(悪化)するかの見方」

3. 前年(17.3)DIは、17年3月調査時点での「17年度売上高が16年度に対して改善(悪化)するかの見方」

(2) 18年度上半期の17年度下半期対比売上高見通しDI=2.3(注)

18年度上半期の17年度下半期に対する売上高見通しDIは、2.3となった。(1)で述べたとおり、17年度下半期の17年度上半期に対する売上高DIはマイナスとなっているが、売上高見通しDIはプラスとなっており、今後、売上高は改善するとみている事業者が多い。

貨物部門では、倉庫、港湾運送及びトラックがプラス、外航海運がゼロ、内航海運及びフェリーがマイナスとなっている。その結果、(1)で述べたとおり売上高DIがプラスとなっただけでなく、売上高見通しDIもプラスとなっており、今後も売上高は改善するとみている事業者が多い。

旅客部門では、航空運送、登録ホテル及び旅行業がプラス、JRがゼロ、旅客船、民鉄旅客、バス及びハイヤー・タクシーがマイナスとなっている。その結果、(1)で述べたとおり売上高DIがマイナスとなっただけでなく、売上高見通しDIもマイナスとなっており、今後も売上高は悪化するとみている事業者が多い。

18年度上半期の売上高見通し

| 部門・業種           |            | 改善       | 悪化   | DI    |
|-----------------|------------|----------|------|-------|
| 全体              |            | 31.7     | 29.4 | 2.3   |
|                 | 貨物部門 (475) | 31.6     | 26.3 | 5.3   |
|                 | 旅客部門 (476) | 30.9     | 33.4 | -2.5  |
|                 | その他 (85)   | 36.5     | 23.5 | 13.0  |
| 貨物              | 外航海運 (50)  | 32.0     | 32.0 | 0.0   |
|                 | 内航海運 (83)  | 31.3     | 32.5 | -1.2  |
|                 | フェリー (40)  | 30.0     | 32.5 | -2.5  |
|                 | 倉庫 (110)   | 36.4     | 18.2 | 18.2  |
|                 | 港湾運送 (87)  | 32.2     | 28.7 | 3.5   |
|                 | トラック (105) | 26.7     | 22.9 | 3.8   |
|                 | 旅客         | 旅客船 (24) | 29.2 | 37.5  |
| JR (6)          |            | 16.7     | 16.7 | 0.0   |
| 民鉄旅客 (94)       |            | 23.4     | 27.7 | -4.3  |
| バス (85)         |            | 27.1     | 37.6 | -10.5 |
| ハイヤー・タクシー (104) |            | 22.1     | 51.0 | -28.9 |
| 航空運送 (39)       |            | 51.3     | 15.4 | 35.9  |
| 登録ホテル (89)      |            | 38.2     | 31.5 | 6.7   |
| 旅行業 (35)        |            | 48.6     | 11.4 | 37.2  |
| その他             | 造船 (62)    | 37.1     | 19.4 | 17.7  |
|                 | 自動車整備 (23) | 34.8     | 34.8 | 0.0   |

(注) 季節変動要因を除いた実勢ベース

### 3. 経常収支

#### (1) 17年度下半期の17年度上半期対比経常収支DI=-20.1(注)

17年度下半期の17年度上半期に対する経常収支DIは、-20.1と、前回調査に引き続きマイナスとなり、前回調査に比べマイナス幅は拡大している(DI=-9.7→-20.1)。

貨物部門では、外航海運、倉庫及び港湾運送がプラスからマイナスとなったほかは、いずれの業種も引き続きマイナスとなっている。その結果、全体では引き続きマイナスとなった。

旅客部門では、旅客船、JR、民鉄旅客、航空運送及び旅行業がプラスからマイナス、バス、ハイヤー・タクシー及び登録ホテルが引き続きマイナスとなっている。その結果、全体では引き続きマイナスとなった。

17年度下半期の経常収支実績

| 部門・業種           |            | 改善       | 悪化   | DI    | 前回調査との差 | 前回(17.9)DI |
|-----------------|------------|----------|------|-------|---------|------------|
| 全体              |            | 25.3     | 45.4 | -20.1 | -10.4   | -9.7       |
|                 | 貨物部門 (475) | 30.5     | 40.2 | -9.7  | -5.5    | -4.2       |
|                 | 旅客部門 (476) | 20.4     | 52.7 | -32.3 | -20.1   | -12.2      |
|                 | その他 (85)   | 23.5     | 33.0 | -9.5  | 17.4    | -26.9      |
| 貨物              | 外航海運 (50)  | 34.0     | 44.0 | -10.0 | -11.9   | 1.9        |
|                 | 内航海運 (83)  | 28.9     | 38.6 | -9.7  | 25.1    | -34.8      |
|                 | フェリー (40)  | 22.5     | 52.5 | -30.0 | 18.0    | -48.0      |
|                 | 倉庫 (110)   | 30.9     | 38.2 | -7.3  | -24.8   | 17.5       |
|                 | 港湾運送 (87)  | 33.3     | 39.1 | -5.8  | -9.1    | 3.3        |
|                 | トラック (105) | 30.5     | 38.1 | -7.6  | -2.2    | -5.4       |
|                 | 旅客         | 旅客船 (24) | 8.3  | 66.7  | -58.4   | -62.6      |
| JR (6)          |            | 16.7     | 66.7 | -50.0 | -66.6   | 16.6       |
| 民鉄旅客 (94)       |            | 17.0     | 48.9 | -31.9 | -42.5   | 10.6       |
| バス (85)         |            | 10.6     | 71.8 | -61.2 | -30.5   | -30.7      |
| ハイヤー・タクシー (104) |            | 20.2     | 51.0 | -30.8 | -5.3    | -25.5      |
| 航空運送 (39)       |            | 28.2     | 46.2 | -18.0 | -22.9   | 4.9        |
| 登録ホテル (89)      |            | 32.6     | 43.8 | -11.2 | 17.3    | -28.5      |
| 旅行業 (35)        |            | 22.9     | 40.0 | -17.1 | -48.2   | 31.1       |
| その他             | 造船 (62)    | 27.4     | 30.6 | -3.2  | 15.3    | -18.5      |
|                 | 自動車整備 (23) | 13.0     | 39.1 | -26.1 | 19.7    | -45.8      |

(注) 季節変動要因を除いた実勢ベース

(2) 18年度上半期の17年度下半期対比経常収支見通しDI=-0.4(注)

18年度上半期の17年度下半期に対する経常収支見通しDIは、-0.4となった。

(1)で述べたとおり、17年度下半期の17年度上半期に対する経常収支DIはマイナスとなっただけでなく、経常収支見通しDIもマイナスとなっており、今後も経常収支は悪化するとみている事業者が多い。

貨物部門では、倉庫及び港湾運送がプラス、外航海運がゼロ、内航海運、フェリー及びトラックがマイナスとなっている。その結果、(1)で述べたとおり経常収支DIはマイナスとなっているが、経常収支見通しDIはプラスとなっており、今後、経常収支は改善するとみている事業者が多い。

旅客部門では、JR、民鉄旅客、航空運送、登録ホテル及び旅行業がプラス、旅客船、バス及びハイヤー・タクシーがマイナスとなっている。(1)で述べたとおり経常収支DIがマイナスとなっただけでなく、経常収支見通しDIもマイナスとなっており、今後も経常収支は悪化するとみている事業者が多い。

18年度上半期の経常収支見通し

| 部門・業種           |            | 改善       | 悪化   | DI    |
|-----------------|------------|----------|------|-------|
| 全体              |            | 30.8     | 31.2 | -0.4  |
|                 | 貨物部門 (475) | 29.5     | 27.8 | 1.7   |
|                 | 旅客部門 (476) | 32.8     | 33.8 | -1.0  |
|                 | その他 (85)   | 27.1     | 35.3 | -8.2  |
| 貨物              | 外航海運 (50)  | 30.0     | 30.0 | 0.0   |
|                 | 内航海運 (83)  | 20.5     | 34.9 | -14.4 |
|                 | フェリー (40)  | 32.5     | 35.0 | -2.5  |
|                 | 倉庫 (110)   | 36.4     | 17.3 | 19.1  |
|                 | 港湾運送 (87)  | 36.8     | 24.1 | 12.7  |
|                 | トラック (105) | 21.9     | 32.4 | -10.5 |
|                 | 旅客         | 旅客船 (24) | 29.2 | 41.7  |
| JR (6)          |            | 66.7     | 16.7 | 50.0  |
| 民鉄旅客 (94)       |            | 25.5     | 24.5 | 1.0   |
| バス (85)         |            | 28.2     | 41.2 | -13.0 |
| ハイヤー・タクシー (104) |            | 20.2     | 55.8 | -35.6 |
| 航空運送 (39)       |            | 51.3     | 20.5 | 30.8  |
| 登録ホテル (89)      |            | 41.6     | 24.7 | 16.9  |
| 旅行業 (35)        |            | 54.3     | 11.4 | 42.9  |
| その他             | 造船 (62)    | 19.4     | 35.5 | -16.1 |
|                 | 自動車整備 (23) | 47.8     | 34.8 | 13.0  |

(注) 季節変動要因を除いた実勢ベース

#### 4. 雇用状況

(1) 調査時点（平成 18 年 3 月 1 日）の人手不足感 DI = 43.7

交通関連企業の人手不足感 DI は、43.7 と、前回調査に引き続きプラスとなり、前回調査に比べプラス幅は拡大している（37.9→43.7）。

貨物部門は全ての業種で、旅客部門は JR を除く全ての業種で人手不足と感じている。その結果、貨物・旅客とも、引き続き全体ではプラスとなった。

人手不足感

| 部門・業種 |                 | 不足   | 過剰   | DI    | 前回調査との差 | 前回 (17.9)DI | 前年 (17.3)DI |
|-------|-----------------|------|------|-------|---------|-------------|-------------|
| 全体    |                 | 51.2 | 7.5  | 43.7  | 5.8     | 37.9        | 35.7        |
|       | 貨物部門 (475)      | 42.3 | 8.9  | 33.4  | 9.1     | 24.3        | 28.0        |
|       | 旅客部門 (476)      | 60.3 | 5.1  | 55.2  | 1.3     | 53.9        | 49.5        |
|       | その他 (85)        | 49.4 | 14.1 | 35.3  | 16.1    | 19.2        | 33.1        |
|       |                 |      |      |       |         |             |             |
| 貨物    | 外航海運 (50)       | 52.0 | 10.0 | 42.0  | 8.7     | 33.3        | 27.8        |
|       | 内航海運 (83)       | 34.9 | 8.4  | 26.5  | 1.9     | 24.6        | 37.0        |
|       | フェリー (40)       | 30.0 | 7.5  | 22.5  | 26.5    | -4.0        | 8.4         |
|       | 倉庫 (110)        | 34.5 | 10.0 | 24.5  | 2.5     | 22.0        | 12.4        |
|       | 港湾運送 (87)       | 51.7 | 8.0  | 43.7  | 16.8    | 26.9        | 27.0        |
|       | トラック (105)      | 48.6 | 8.6  | 40.0  | 13.9    | 26.1        | 41.1        |
| 旅客    | 旅客船 (24)        | 33.3 | 4.2  | 29.1  | 0.0     | 29.1        | 20.0        |
|       | JR (6)          | 0.0  | 33.3 | -33.3 | -16.6   | -16.7       | -33.3       |
|       | 民鉄旅客 (94)       | 42.6 | 5.3  | 37.3  | 4.3     | 33.0        | 15.0        |
|       | バス (85)         | 63.5 | 4.7  | 58.8  | 2.8     | 56.0        | 58.7        |
|       | ハイヤー・タクシー (104) | 95.2 | 1.9  | 93.3  | 5.1     | 88.2        | 92.8        |
|       | 航空運送 (39)       | 48.7 | 7.7  | 41.0  | -10.3   | 51.3        | 28.0        |
|       | 登録ホテル (89)      | 53.9 | 6.7  | 47.2  | 3.2     | 44.0        | 33.9        |
|       | 旅行業 (35)        | 54.3 | 2.9  | 51.4  | -0.4    | 51.8        | 52.0        |
| その他   | 造船 (62)         | 59.7 | 9.7  | 50.0  | 22.3    | 27.7        | 43.2        |
|       | 自動車整備 (23)      | 21.7 | 26.1 | -4.4  | -4.4    | 0.0         | -4.2        |

(注) 1. 前回 (17.9) DI は、17 年 9 月調査時点の「人手不足感」

2. 前年 (17.3) DI は、17 年 3 月調査時点の「人手不足感」

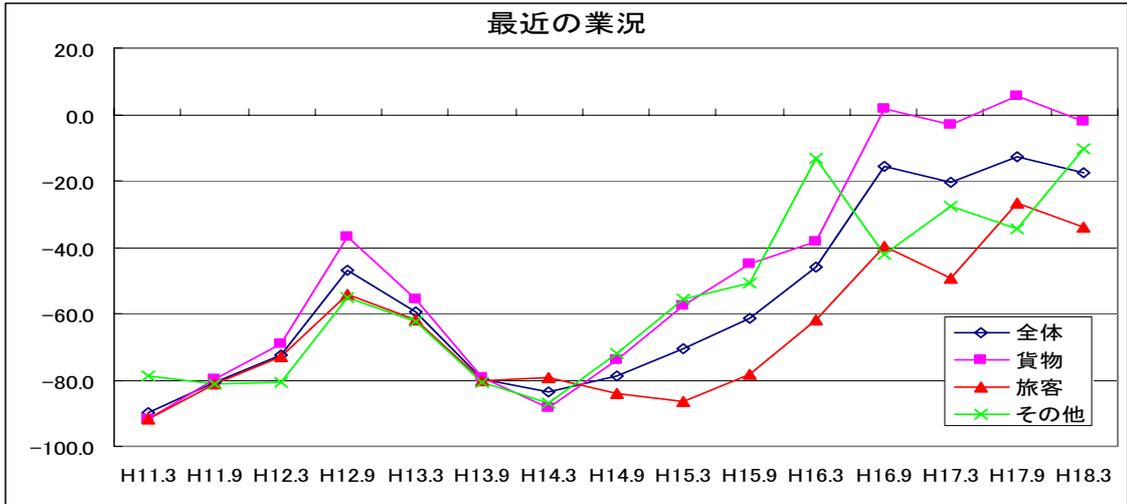
(2) 採用者数DI=12.4

18年度採用者数DIは、12.4となり、引き続きプラスとなった(DI=12.5→12.4)。業種別にみると、バス及び自動車整備がマイナスからプラス、旅客船及びハイヤー・タクシーがプラスからマイナス、フェリーがゼロからマイナスとなったほかは、いずれの業種も引き続きプラスとなっている。

採用者数

| 部門・業種           |            | 増加       | 減少   | DI    | 前回調査との差 | 前年(17.3)DI |
|-----------------|------------|----------|------|-------|---------|------------|
| 全体              |            | 25.8     | 13.4 | 12.4  | -0.1    | 12.5       |
|                 | 貨物部門 (475) | 22.7     | 10.1 | 12.6  | -5.3    | 17.9       |
|                 | 旅客部門 (476) | 26.9     | 17.9 | 9.0   | 2.5     | 6.5        |
|                 | その他 (85)   | 36.5     | 7.1  | 29.4  | 14.7    | 14.7       |
| 貨物              | 外航海運 (50)  | 34.0     | 4.0  | 30.0  | 18.9    | 11.1       |
|                 | 内航海運 (83)  | 20.5     | 6.0  | 14.5  | -7.7    | 22.2       |
|                 | フェリー (40)  | 10.0     | 15.0 | -5.0  | -5.0    | 0.0        |
|                 | 倉庫 (110)   | 20.9     | 10.9 | 10.0  | -7.8    | 17.8       |
|                 | 港湾運送 (87)  | 19.5     | 12.6 | 6.9   | -13.7   | 20.6       |
|                 | トラック (105) | 28.6     | 11.4 | 17.2  | -4.7    | 21.9       |
|                 | 旅客         | 旅客船 (24) | 4.2  | 8.3   | -4.1    | -24.1      |
| JR (6)          |            | 50.0     | 0.0  | 50.0  | 33.3    | 16.7       |
| 民鉄旅客 (94)       |            | 27.7     | 12.8 | 14.9  | 14.9    | 0.0        |
| バス (85)         |            | 21.2     | 20.0 | 1.2   | 4.6     | -3.4       |
| ハイヤー・タクシー (104) |            | 23.1     | 36.5 | -13.4 | -26.3   | 12.9       |
| 航空運送 (39)       |            | 33.3     | 2.6  | 30.7  | 14.7    | 16.0       |
| 登録ホテル (89)      |            | 32.6     | 15.7 | 16.9  | 24.4    | -7.5       |
| 旅行業 (35)        |            | 40.0     | 2.9  | 37.1  | 5.1     | 32.0       |
| その他             | 造船 (62)    | 41.9     | 6.5  | 35.4  | 8.2     | 27.2       |
|                 | 自動車整備 (23) | 21.7     | 8.7  | 13.0  | 21.3    | -8.3       |

(注) 前年(17.3)DIは、17年3月調査時点での「採用者数」



(注) 16年3月以前は回答企業の属する業界の景況感、16年9月以降は回答企業の業況について調査

